

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和2年度4月

○ 概要

(1) 令和2年9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,555億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲2.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,725円（伸び率+16.1%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,535億円（伸び率▲11.2%）薬剤料が5,006億円（伸び率▲0.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が920億円（伸び率▲7.7%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料6,630円（伸び率+19.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.90種類（伸び率+2.9%）、29.7日（伸び率+17.4%）、77円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,052億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+1億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは21循環器官用薬の721億円（伸び幅▲29億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+54億円（総額405億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,052億円 (+1億円)	21 循環器官用薬 (721億円)	11 中枢神経系用薬 (699億円)	39 その他の代謝性 医薬品(684億円)
0歳以上 5歳未満	20.1億円 (▲12.7億円)	44 アレルギー用薬 (8.9億円)	61 抗生物質製剤 (2.8億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5億円)
5歳以上 15歳未満	74.5億円 (▲17.1億円)	44 アレルギー用薬 (29.9億円)	11 中枢神経系用薬 (20.9億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.3億円)
15歳以上 65歳未満	1,400億円 (▲7億円)	11 中枢神経系用薬 (299億円)	39 その他の代謝性 医薬品(256億円)	21 循環器官用薬 (218億円)
65歳以上 75歳未満	977億円 (+16億円)	21 循環器官用薬 (201億円)	39 その他の代謝性 医薬品(199億円)	42 腫瘍用薬 (130億円)
75歳以上	1,580億円 (+22億円)	21 循環器官用薬 (298億円)	11 中枢神経系用薬 (263億円)	39 その他の代謝性 医薬品(222億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,725円（伸び率+16.1%）で、最も高かったのは京都府（12,623円（伸び率+17.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,625円（伸び率+10.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは東京都（伸び率+24.7%）、最も低かったのは秋田県（伸び率+6.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	80.7 %	+2.9 %
薬剤料ベース	18.4 %	▲1.5 %
後発品調剤率	76.2 %	+1.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.5 %	+1.1 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲7.7 %	▲0.1 % (95歳以上 100歳未満)	▲34.7 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4 %	25.6 % (100歳以上)	11.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.7 %	85.7 % (100歳以上)	71.7 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	800億円 (▲83億円)	21 循環器官用薬 (253億円)	23 消化器官用薬 (111億円)	11 中枢神経系用薬 (102億円)
0歳以上 5歳未満	5.4億円 (▲4.4億円)	44 アレルギー用薬 (2.7億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6億円)	61 抗生物質製剤 (0.5億円)
5歳以上 15歳未満	14.1億円 (▲6.5億円)	44 アレルギー用薬 (9.3億円)	11 中枢神経系用薬 (1.5億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3億円)
15歳以上 65歳未満	271億円 (▲34億円)	21 循環器官用薬 (71億円)	11 中枢神経系用薬 (49億円)	44 アレルギー用薬 (37億円)
65歳以上 75歳未満	196億円 (▲17億円)	21 循環器官用薬 (77億円)	23 消化器官用薬 (26億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21億円)
75歳以上	314億円 (▲21億円)	21 循環器官用薬 (105億円)	23 消化器官用薬 (54億円)	11 中枢神経系用薬 (36億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,505円	1,853円(北海道)	1,197円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+10.4 %	+20.5 % (東京都)	+0.6 % (秋田県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.7 %	88.9 % (沖縄県)	75.1 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4 %	22.0 % (鹿児島県)	16.1 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	76.2 %	83.5 % (沖縄県)	71.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.5 %	63.9 % (沖縄県)	51.5 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年4月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。